



校訓：進取 敬愛 剛健

児童像 【考える子 思いやる子 たくましい子】

英田っ子

学校だより 12月号

平成28年12月1日

校長 藤井 恒雄

『二学期の終わりに』～思いやり・言葉～

平成28年のカレンダーもあと1枚を残すだけとなり、いよいよ今日から12月（師走）です。今年の大雪（たいせつ）は12月7日。寒さも一段と厳しさを増してきました。保護者・地域の皆様には、いしかわ教育ウィークの一環として実施した学校公開・学習発表会に多数のご参加をいただきありがとうございました。



11月もいしかわっ子駅伝交流大会、保育園との交流会、町探検やお話会等の多くの行事が続きました。先月の全校集会では「努力の壺（挑戦）」の話をしました。子どもたちは学習にも運動にも挑戦することを決め、壺をいっぱいにしようと頑張り少しずつ成長してきました。今月も「努力の壺」を意識し、やるべきことにこつこつと取り組み、今の力をさらに伸ばして行ってほしいと思います。そして3学期は、学年としてのまとめの時期であると同時に、次学年（6年生は中学生）の準備の時期でもあります。次学年を意識し、様々なことに挑戦し力を蓄えていてもらいたいと思います。

さて、12月10日は「世界人権デー」です。「人間は生まれながらに自由で平等である」という世界人権宣言が採択された日で、人権について世界中で考えようという記念日になりました。学校でも道徳や学級活動の時間を中心に、友だちと仲良くするにはどうすればよいか、楽しい学校にするにはどうすればよいか話し合っています。また、読み聞かせの本を人権にちなんだ内容にしたり、キラリさん見つけで友だちの良い所を紹介したりしています。今年の夏、リオデジャネイロでオリンピックが開催され、その後障害のある選手が参加するパラリンピックも開催されました。その開会式の入場行進では、車椅子の選手たちが選手団の先頭です。それは、車椅子の選手の前には人が立ってしまえば、前が見えなくなるからです。また、障害に合わせて歩いたり、手を引いて歩いたりしています。メダルを競う大会ですが、相手のことを考え、自分たちのできることを行う思いやりを大事にしています。私たちも友だちに対して思いやりの心で言葉をかけたり、行動したりすることはとても大切なことです。

今日の集会では、『言霊』（ことだま）についての話をしました。昔から日本では、言葉は「言霊」と呼ばれ、言葉には魂・命が宿り、不思議な力があると言われてきました。『言葉』は、言（こと）の葉（は）と書きます。言ったことは、葉っぱのようによくくり返し再生されるという意味です。したがって、よいことを言ったらよいことが起こるし、こうなりたと言ったら、実現できるのです。しかし、反対に「うざい」とか「きもい」という言葉を発すると、言われた方はとても心が傷つきます。そして言葉は、それを使う人の心を染めていきます。醜い言葉は、人の心や顔を醜くしていきます。美しい言葉や優しい言葉は、人の心や顔を美しく輝かせていきます。思いやりの心を込めた優しい言葉、美しい言葉を毎日たくさんの人に配る。そうすると、必ず多くの笑顔と優しい言葉が返ってきます。

自分にしてほしいことを他の人にして、自分にとっていやなことはしないようにして、楽しく清々しい学校にしていきたいと思います。

